

放課後の居場所の「質」向上に向けた調査研究 パートナー団体募集

公募説明会

アジェンダ

1. 団体紹介・ご挨拶
2. 本事業の背景
3. 新・保育環境評価スケール④（SACERS）のご紹介
4. 本事業の概要と募集要項
5. 今後のスケジュール・実施内容
6. 質疑応答

放課後NPOアフタースクール紹介・ご挨拶

放課後はゴールデンタイム

Creating a fun-derful after-school experience, together.

私たちは、「すべての子どもに居場所と出番がある社会」「みんながみんなの子どもを育てる社会」を目指し放課後を通じて、子ども達の幸せに貢献するため、以下の活動を行っています。

アフタースクール事業

だれもが
居心地よい
豊かな
放課後の
居場所を創る

地方支援・研修事業

地域と
つながる
全国の放課後
質向上に取り組む

ソーシャルデザイン事業

企業と連携し
多様な体験を
創出する
社会を目指す

設立：2009年6月

代表：平岩国泰（渋谷区教育委員、新渡戸文化学園理事長）

本部：東京都文京区／職員：357名（常勤スタッフ93名）

受賞：東京都女性活躍推進大賞、東京ライフ・ワーク・バランス認定企業、グッドデザイン賞（4回）、キッズデザイン賞（5回）

団体概要

だれもが居心地よい豊かな放課後の居場所を運営

どの子どもも排除されない、一人ひとりが「居たい・行きたい・やってみたい」放課後の居場所
自分で過ごし方を決める、多様な人・体験と出会う、好きが見つかる、自分らしくいられる
放課後の居場所の価値とノウハウを全国に発信しています。

アフタースクールのポイント

学校で開催



移動リスクや送迎の手間なく
多様な活動に適した
広く安全なスペースを確保

いつでも誰でも



就労や経済事情などの家庭の状況
発達特性や登校有無など
特性や事情に関わらずすべての子に

市民の参画を重視



地域・保護者・多様な人との
関わりや豊かな体験が
つながり・ドロップアウト予防
子ども達のWell-beingに寄与

運営実績

公立校（一体型）

- 千代田区立：九段小学校
- 板橋区立：上板橋第四小学校
- 千葉市立：稲浜小学校

公立校（放課後子ども教室）

- 台東区立：谷中小学校
- 台東区立：忍岡小学校
- 荒川区立：峡田小学校
- 文京区立：汐見小学校（運営支援）

特別支援学校・障害児支援

- 都立：光明学園（特別支援学校
放課後子ども教室）
- 港区：重度障害児日中一時支援

私立校

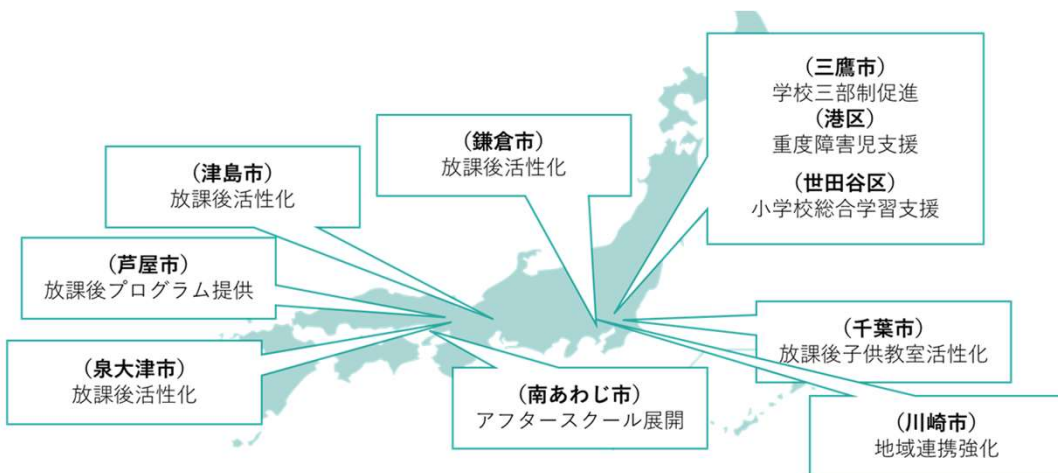
- 東京農業大学稲花小学校
- 聖心女子学院初等科
- 湘南学園小学校
- 桐蔭学園小学校
- 開智小学校（総合部）

団体概要

全国の放課後の質向上への取り組み

自治体と協働し、全国の放課後を豊かにする

放課後充実や学校をハブにした地域づくりをサポート、自治体間の先行事例・情報共有ツールも提供しています。



全国放課後担当部署向け情報誌「放課後マガジン」の発行

放課後人材育成 研修の実施（年3回程度）

職員研修の機会が少ない運営実務者に向け、実践に役立つ研修や好事例共有の場を設けています。

研修実績

オンライン開催（アーカイブ配信有）

- 延べ参加人数 約5,000人
- 参加実績ユニーク数 2,000人以上
- 全国47都道府県 1,000人程度/回参加

研修内容（一部）

- 要配慮/特別支援対応
- 発達・児童理解
- 安全管理・緊急時対応
- 衛生管理
- アレルギー対応
- 不審者対応
- 苦情・保護者対応
- 遊びプランニング
- 個人情報管理/ICTリテラシー他

要配慮児童対応



地域との連携・他自治体事例

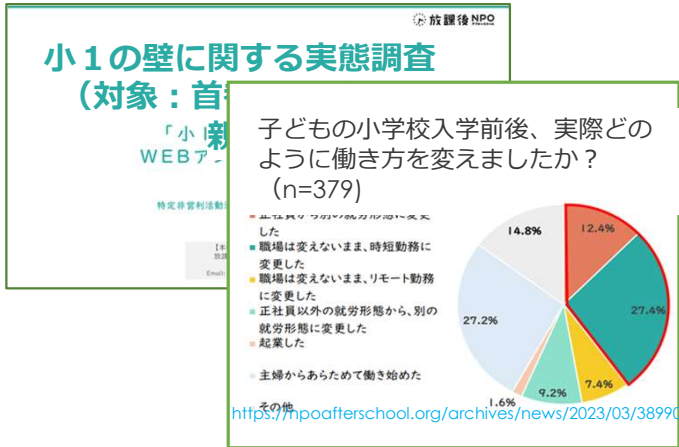


団体概要

放課後の社会課題を特定し、価値を可視化する調査研究を行っています

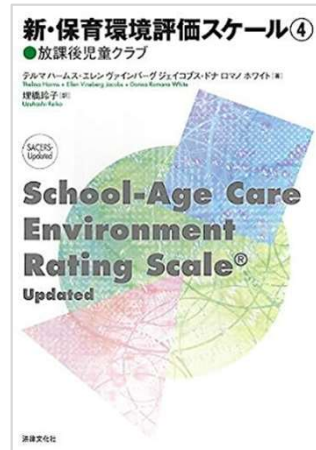
現状課題の可視化

課題認知の促進：実態調査



質と価値の可視化

環境評価スケールの実証実験 & 子どものWell-beingとの因果研究



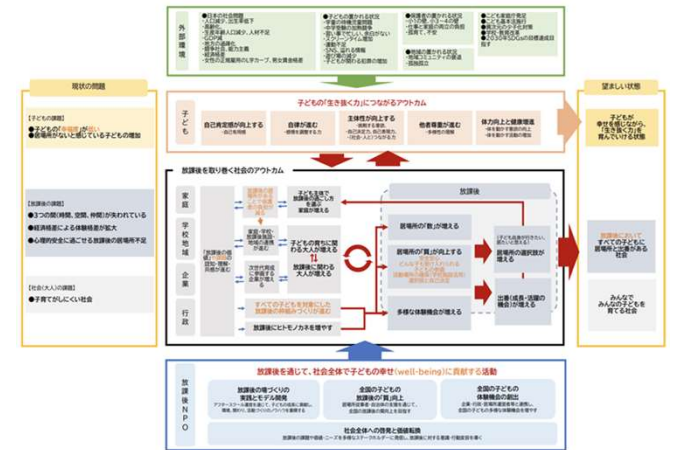
慶應義塾大学
中室牧子先生

「教育に科学的根拠を」

- 「質の高い保育」が就学後の認知・非認知能力に与える効果
- 教育の「質」が子供の学力や非認知能力に与える影響

変革の放課後構造理解

セオリー・オブ・チェンジ(TOC)の作成

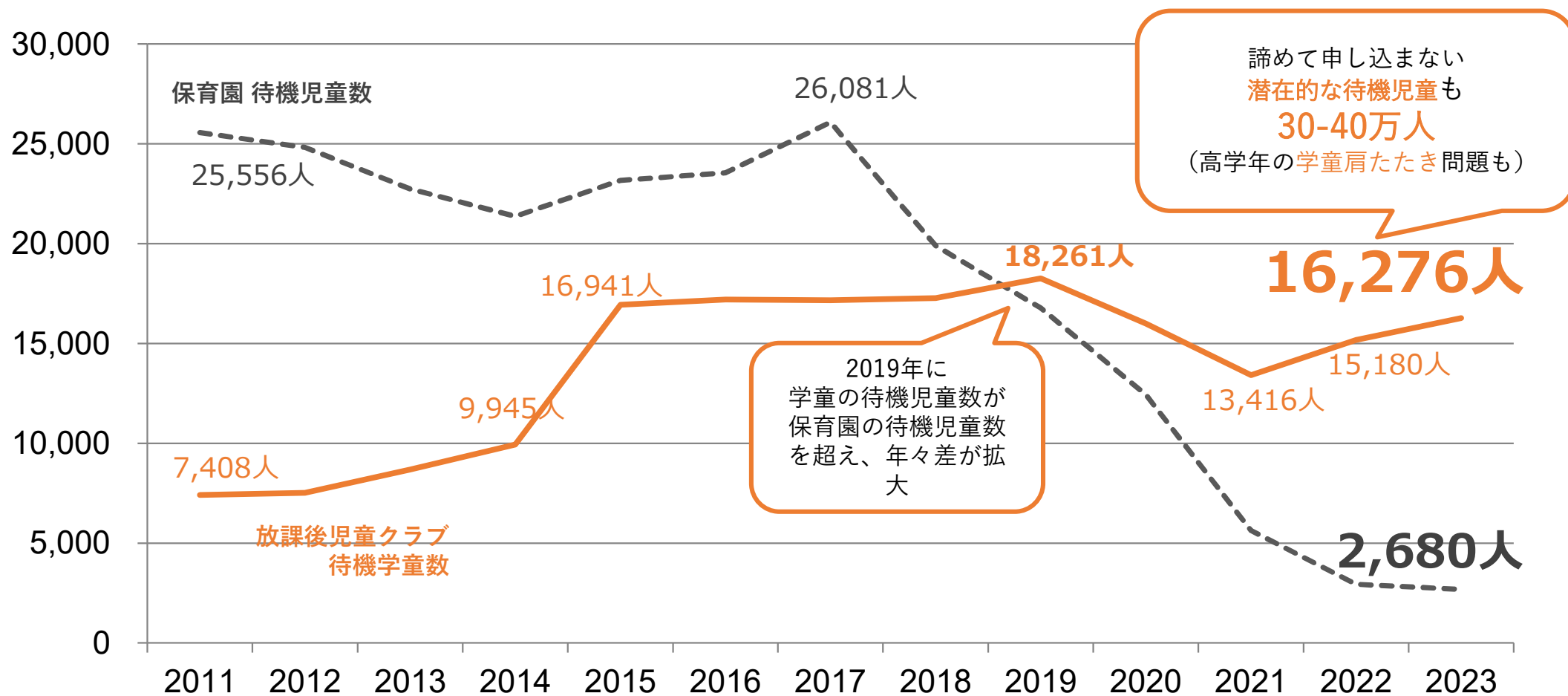


チェンジ・エージェント
小田理一郎先生

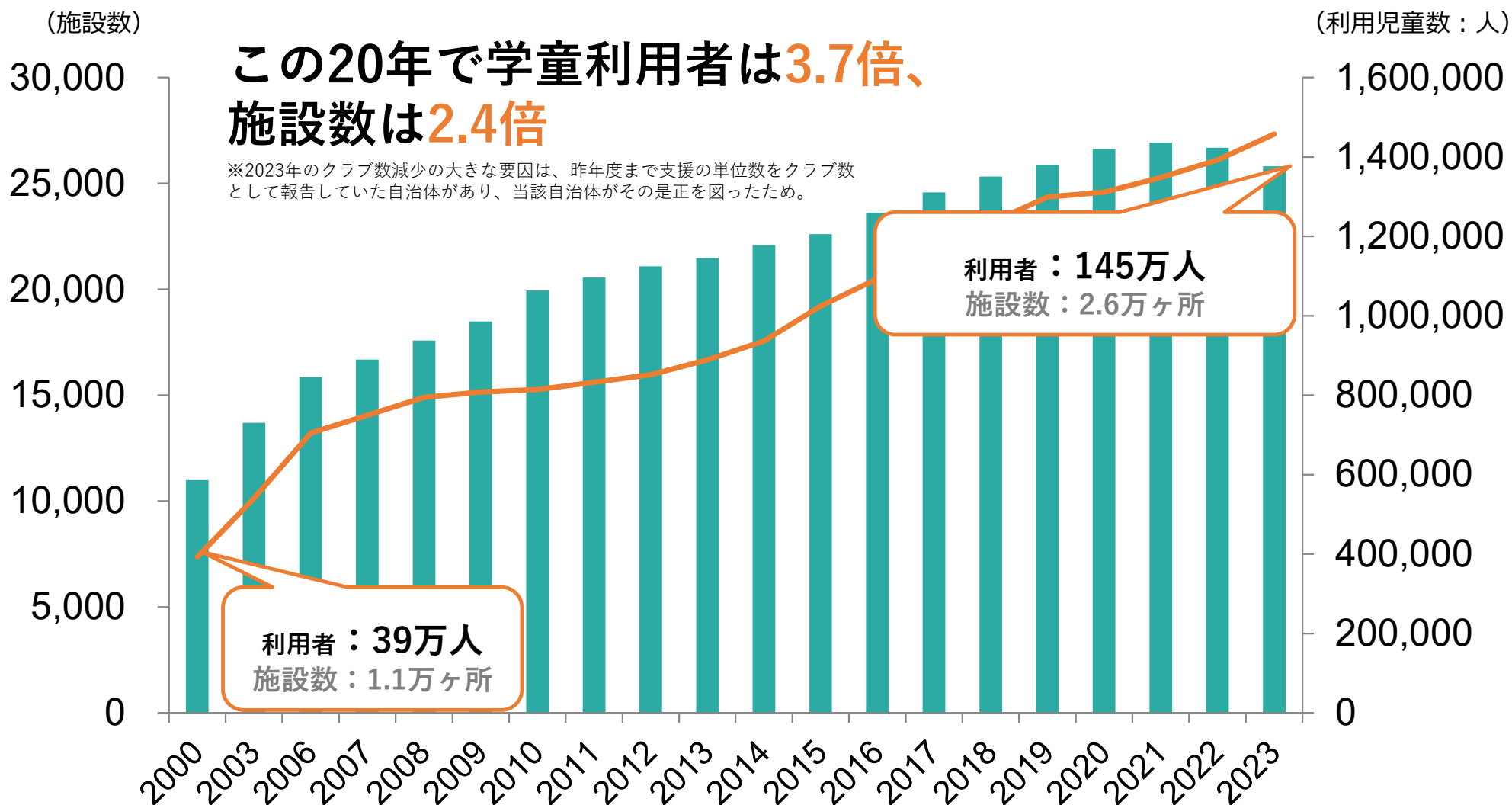
複雑な構造に
スコープの特定
コレクティブインパクトでの
解決を

本事業の背景

▼放課後児童クラブの待機児童数 2023年5月時点で16,200人以上。潜在的には30~40万人とも。



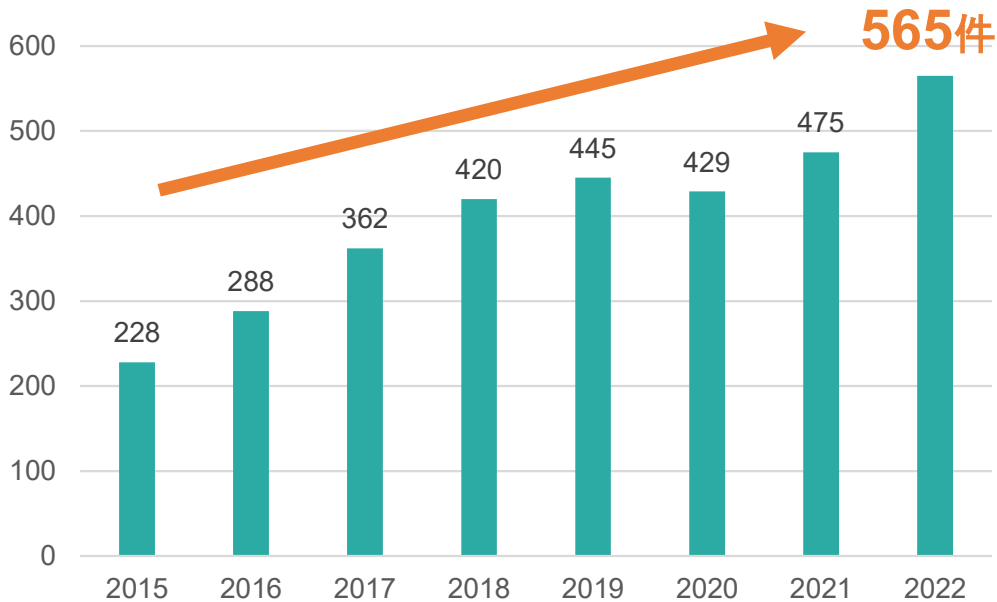
【出典】「令和5年 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況」（2023年5月1日現在、12月25日発表）、「保育所等関連状況取りまとめ（令和5年4月1日）」



【出典】「令和5年放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況」（2023年5月1日現在、12月25日発表）

物理的な「量」の確保がされても、「安全」が追い付いていない現状

▼放課後児童クラブにおける事故報告件数



(出典) こども家庭庁「[教育・保育施設等における事故報告集計](#)」より作成
(注) 治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故

▼放課後児童クラブの安全対策に関する調査

災害や事故・ケガ等発生時の対応マニュアル作成状況

- 実地調査対象施設の約3割でマニュアルがない
- 書面調査でマニュアルを「作成している」と回答した施設のうち、3割以上でマニュアルがない、または、マニュアルとして機能していない資料等をマニュアルと認識していることが実地調査により判明
- マニュアルがあっても、周知・共有が徹底されていない施設が6割強

実施期間：令和3年6月～4年3月

対象機関：愛知県、名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市、春日井市、豊川市
これらの市に所在する放課後児童クラブ（93施設を抽出し書面調査。その中の22施設を実地調査）

(出典) 総務省「[放課後児童クラブの安全対策に関する調査結果](#)」
(令和4年)より抜粋

自由に遊べる空間の不足や学童が「居たい、行きたい、やってみたい」場所になっていないという声も。

▼子どもの声

- 学童は楽しくない。先生にダメって言われる。あばれたらダメ、しゃべったらダメ、外にも行けない。先生がやさしい人になってほしい。（兵庫県3年生）
- 学童に友達がいるといいなと思う。元々はいたけど、やめちゃったから寂しい。（神奈川県4年生）
- 学童がもうちょっと広かったらいいと思う。人数が多いとぎゅうぎゅうでうるさい。（大阪府1年生）
- 公園が近くにない（兵庫県5年生、大阪府1年生）
- 自由に遊びたい。（神奈川県4年生、兵庫県1年生）
- 学校が疲れる。放課後は、おやつを食べて、ゆっくりしたい。（長野県2年生）

▼保護者の声

- ドッジボールを楽しみに児童館に行っていたけど、職員さんにドッチボールを禁止されてから行かなくなった。職員さんがダメダメということがよくある。（長野県2年生保護者）
- 校庭開放はあるが、一度家に帰ってから遊びに行くルール。家と学校が遠いから遊びに行かない。（兵庫県5年生保護者、長野県2年生保護者）
- 共働きが多く、親同士の遠慮もあってお互いの家で遊ぶのは減っている。（北海道1・3・5年生保護者）
- 学童に通っている子といない子が一緒に遊べない。学年が上がるごとに仲いい子が減っていくのが不安。（神奈川県2年生保護者）
- 子どもの遊び場がとにかく少ない。（京都府1・4年生保護者）
- 子ども同士やひとりで安全に過ごせるかが気になる。見守りがあるといいなと思う。（兵庫県3年生保護者）

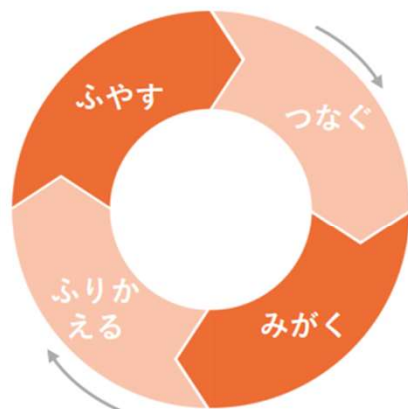
こどもの居場所づくりに関する指針の概要②

こどもの居場所づくりを進めるに当たっての基本的な視点

各視点に共通する事項

- ① **こどもの声を聴き、こどもの視点に立ち、こどもとともにつくる居場所**
 - ー こども・若者の声を聴き、「居たい」「行きたい」「やってみたい」というこども・若者の視点に立ち、こども・若者とともに居場所づくりを進めることが重要
- ② **こどもの権利の擁護**
 - ー こども基本法等を踏まえ、こどもの権利について理解し守っていくとともに、こども自身がその権利について学ぶ機会を設けることも重要
- ③ **官民の連携・協働**
 - ー 居場所の性格や機能に応じて、官民が連携・協働して取り組むことが必要

こどもの居場所づくりにおける 4つの基本的な視点



これらの視点に順序や優先順位はなく、相互に関連し、また循環的に作用するものである。

ふやす

～多様なこどもの居場所がつけられる～

- ・地域の既に居場所になっている資源やこども・若者が居場所を持っているか等実態を把握する。
- ・学校や児童館、公民館など既存の地域資源を柔軟に活用して居場所づくりを進める。
- ・新たに居場所づくりを始めたい人を、多面的にサポートする。
- ・持続可能な居場所づくりが進められるよう、ソフトとハードの両面で支える。
- ・災害時においてこども・若者が居場所を持てるよう配慮する。

つなぐ

～こどもが居場所につながる～

- ・居場所に関する情報をまとめ、可視化し、こども・若者自身が見つけられ、選びやすくする。
- ・こども・若者の興味に即した居場所づくりにするなど、こども・若者が利用しやすい工夫を施す。
- ・自分で居場所を見つけにくいこども・若者も、幅広い手段を講じ、居場所につながるようにする。

みがく

～こどもにとって、より良い居場所となる～

- ・こども・若者の心身の安全が確保され、安心して過ごせる居場所づくりを進める。
- ・こども・若者が居場所づくりに参画し、こども・若者とともに居場所づくりを進める。
- ・どのように過ごし、誰と過ごすかを意識した居場所づくりを進める。
- ・居場所同士や関係機関が対話し、連携・協働した地域全体の居場所づくりを進める。
- ・環境の変化によるこども・若者のニーズに対応した居場所づくりを進める。

ふりかえる

～こどもの居場所づくりを検証する～

- ・居場所づくりの検証の必要性は高いが、効果的な指標は定まっておらず、今後の重要な検討課題である。こどもの居場所の多様性と創造性を担保しつつ、理念を踏まえた指標の検討が必要である。

居場所事業の評価、振り返りや居場所の「質」の向上について、課題や難しさを感じている点

子ども達の可能性を広げる事を目的に様々な事に取り組んでいますが、それに対する**評価や根拠の部分**が弱いと感じており、伝えたり広げたりと言う段階で難しさを感じています。

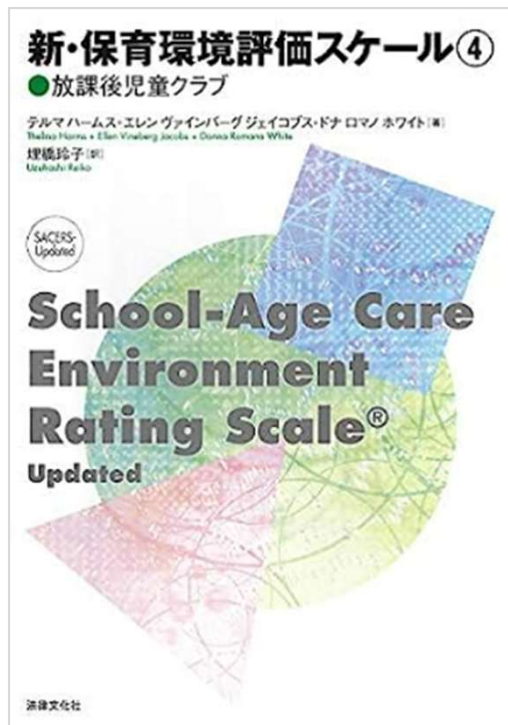
指導員の保育に対する熱意や意識も高いものの、その要素は属人的であり、今のベテラン指導員が退職しても質の高い育成支援の内容を維持していく仕組みがありません。指導員の熱意のみで成り立つ学童保育ではなく、しっかりと**根拠のある質の確保**が必要と考えております。

質の可視化とともに、評価・ふりかえり、改善していくための方法が必要

質向上の価値・効果をエビデンスとして示し、質向上へ投資されることを目指す

新・保育環境評価スケール④（SACERS）のご紹介

SACERS = School-Age Care Environment Rating Scale



- School-Ageにあるとおり、**学童期の子ども**の発達により良い保育環境とは何か、ということに考慮して設計された評価項目から構成される
- 「質」の向上にあたり、SACERSには以下の2点が主に期待される
 - ①各項目ごとに細かく段階が示されており、「やりやすいところからやってみよう」という改善の道筋や次のステップへのヒントを提供する
 - ②共通の枠組み（客観的指標）を用いて活動を振り返ることで、ごく基本的な事柄に抜けや漏れがあると気づくきっかけになること
- 本書は、放課後児童クラブ、と表記されているが、学童期の子どもたちの発達においてよい環境とは、という観点で行政の枠組みに関係なく世界共通で利用できるスケールなので、アメリカ・カナダほか海外では活用されている。

放課後の保育環境の質を客観的に測るものさし（SACERSスケール）

【項目一覧】

サブスケール1 ▶空間と家具	2	サブスケール4 ▶相互関係	54
1. 室内空間	2	27. 来所/帰宅	54
2. 運動できる空間	4	28. 支援員と子ども	56
3. ひとりになれる空間	6	29. 支援員と子どものコミュニケーション	58
4. 室内のレイアウト	8	30. 子どもの見守り	60
5. 生活の家具	10	31. 望ましい習慣・態度の育成	62
6. 学習とレクリエーションのための家具	12	32. 子ども同士	64
7. くつろげる家具	14	33. 支援員と保護者	66
8. 運動のための設備・用具	16	34. 支援員同士	68
9. 学校との連携	18	35. 支援員と担任教師	70
10. 支援員のための設備	20		
サブスケール2 ▶健康と安全	22	サブスケール5 ▶育成支援計画	72
11. 衛生管理の方針	22	36. 日課	72
12. 衛生管理の実践	24	37. 自由選択活動	74
13. 緊急時の対応	26	38. 地域資源の活用	76
14. 安全対策の実践	28		
15. 出欠席	30	サブスケール6 ▶研 修	78
16. 帰 宅	32	39. 研修機会	78
17. 食事/おやつ	34	40. 職員会議	80
18. 子どもの衛生習慣の確立	36	41. スーパービジョンと評価	82
サブスケール3 ▶活 動	38	サブスケール7 ▶特別支援	84
19. 製 作	38	42. 特別支援を要する子どもへの対応	84
20. 音楽とダンス	40	43. 個別対応	86
21. 構成遊び	42	44. 学習とスキルの向上	88
22. 演 劇	44	45. 関 与	90
23. 言語/読みの活動	46	46. 子ども同士のやりとり	92
24. 算数/思考の活動	48	47. コミュニケーションの促進	94
25. 科学/自然の活動	50		
26. 多様性の認識	52		

7つのサブスケール、特別支援も含めると47の項目
→329の指標について3時間の観察および
現場支援員・スタッフのインタビューから評価

誰が観察評価するの？

スケールのルールに沿って研修を受けた者が行います。調査研究としての精度と客観性を担保するために以下の配慮を行います。

- スケール（ものさし）の使い方や解釈について研修を受けた評価者が、必ず2名で実施します。
- 調査研究は専門家の監修のもと実施します。

通常の振り返り等であれば、セルフチェックで活用することもできます。

【スケールを使う際の心構え】

放課後の質に完璧な状態はなく
放課後の質を完璧に測れるものさしもない
今回はそのなかの「保育環境」（≡あくまで一部分）
について見える化する

質の高い保育・居場所と子どもへの影響について 分析をサポート

- 保育環境評価の実施と質向上の手法の効果検証
- 居場所の「質」と課題の調査
 - 地域差、事業者間の差異の有無と差がある場合の要因分析
 - 質の共通課題が何か 等



7 カテゴリー
「空間と家具」
「健康と安全」
「活動」
「育成支援計画」
「相互関係」
「研修」
「特別支援対応」

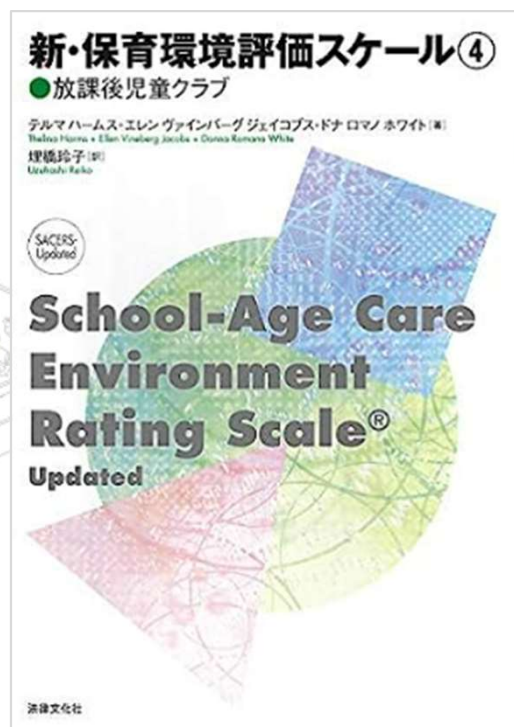


一般社団法人エビデンス共創機構・理事
慶應義塾大学 総合政策学部
中室牧子教授(教育経済学)



同・代表理事
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科
伊芸研吾特任教授

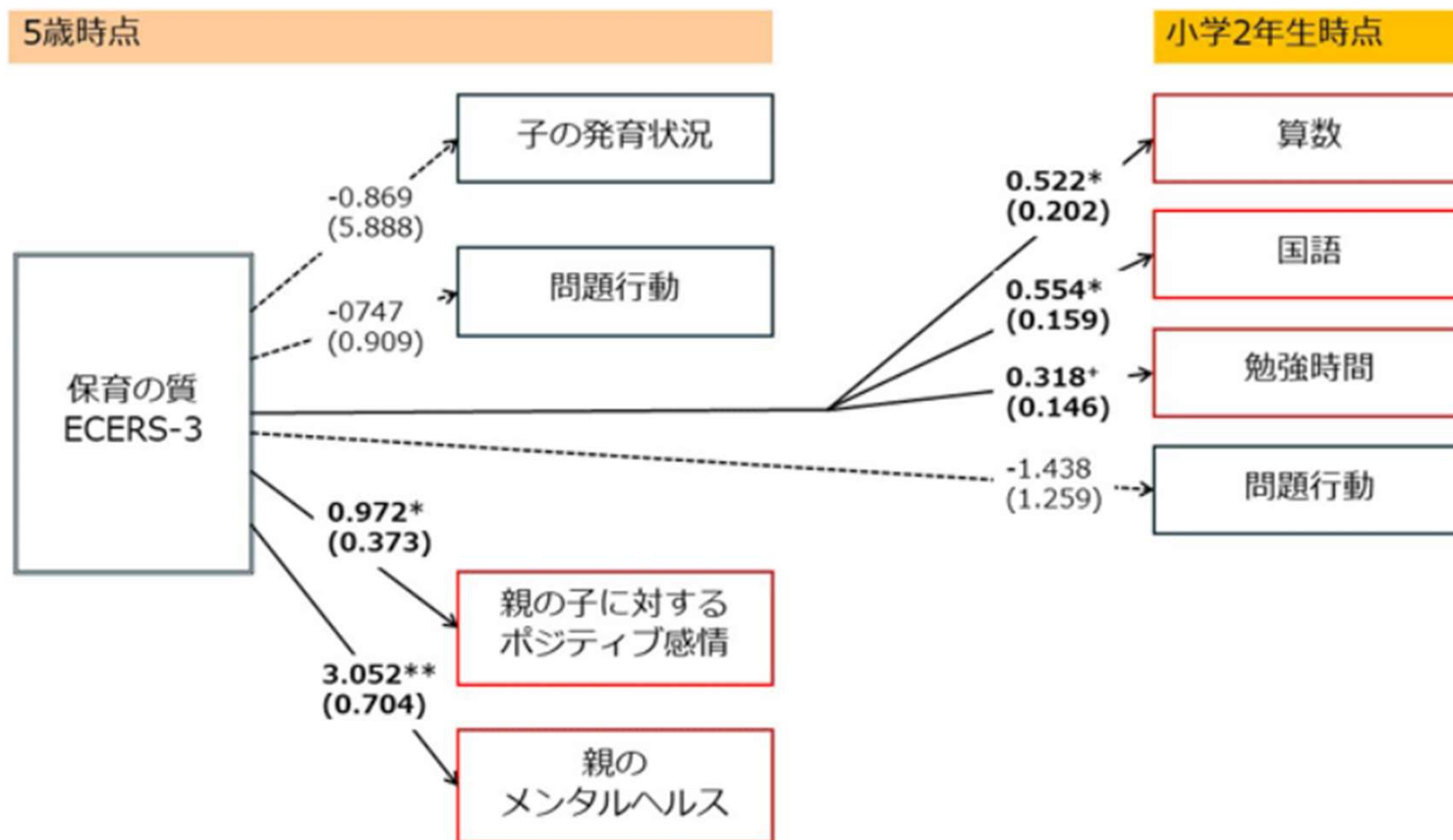
新・保育環境評価スケール④（SACERS）を使った評価を実践してみよう



【項目一覧】

サブスケール1 ▶ 空間と家具	2	サブスケール4 ▶ 相互関係	54
1. 室内空間	2	27. 来所/帰宅	54
2. 運動できる空間	4	28. 支援員と子ども	56
3. ひとりになれる空間	6	29. 支援員と子どものコミュニケーション	58
4. 室内のレイアウト	8	30. 子どもの見守り	60
5. 生活の家具	10	31. 望ましい習慣・態度の育成	62
6. 学習とレクリエーションのための家具	12	32. 子ども同士	64
7. くつろげる家具	14	33. 支援員と保護者	66
8. 運動のための設備・用具	16	34. 支援員同士	68
9. 学校との連携	18	35. 支援員と担任教師	70
10. 支援員のための設備	20	サブスケール5 ▶ 育成支援計画	72
サブスケール2 ▶ 健康と安全	22	36. 日課	72
11. 衛生管理の方針	22	37. 自由選択活動	74
12. 衛生管理の実践	24	38. 地域資源の活用	76
13. 緊急時の対応	26	サブスケール6 ▶ 研修	78
14. 安全対策の実践	28	39. 研修機会	78
15. 出欠席	30	40. 職員会議	80
16. 帰宅	32	41. スーパービジョンと評価	82
17. 食事/おやつ	34	サブスケール7 ▶ 特別支援	84
18. 子どもの衛生習慣の確立	36	42. 特別支援を要する子どもへの対応	84
サブスケール3 ▶ 活動	38	43. 個別対応	86
19. 製作	38	44. 学習とスキルの向上	88
20. 音楽とダンス	40	45. 関与	90
21. 構成遊び	42	46. 子ども同士のやりとり	92
22. 演劇	44	47. コミュニケーションの促進	94
23. 言語/読みの活動	46		
24. 算数/思考の活動	48		
25. 科学/自然の活動	50		
26. 多様性の認識	52		

補足：ECERS（Early Child Environment Rating Scale）の有用性



Note. 本文Table 2のModel 2の推定値を示した。係数の括弧内は標準誤差。実線は統計的に有意な関係を示す。

+ : p < .10; * : p < .05; ** : p < .01.

姉妹版スケールであるECERSにおいては、そのスコアが向上することで、小学校入学後の学力や保護者のメンタルヘルス向上にも寄与することがすでに実証されている

出典：RIETI - 保育の質がもたらす親と子への影響と質向上のための介入効果の検証

本事業の概要と募集要項

本事業の概要

放課後の居場所の状況を可視化し、「質」の改善を効果的に行えるようにする

居場所の「質」が子どもの育ち（Well-being）にどう影響するかについてエビデンスを構築し、居場所の質向上への投資と仕組み構築を目指す

- 事業名：小学生の放課後の居場所の「質」向上と子どものWell-beingに関する調査研究
- 対象地域：全国
- 事業期間：2024年4月1日～2025年3月31日まで
（最長2027年3月まで2年程度継続して調査・効果検証を行う予定です）
- 公募期間：2024年5月22日（水）～6月7日（金）（予定）
- 採択予定団体数：5団体 or 自治体（計10拠点）程度

※外部専門家（一般社団法人エビデンス共創機構 伊芸 研吾氏（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授）、中室 牧子氏（慶應義塾大学 総合政策学部教授・教育経済学））の監修・協力のもと本調査研究を実施いたします

対象となる団体・自治体

- 小学生を対象とした放課後の居場所（放課後児童クラブ、放課後子ども教室、児童館、子ども第三の居場所等）を運営しており、その実績が2年以上ある事業者及び自治体
- 事業の拡大および評価手法そのものが入り入れやすいものであるかを検証する目的で、今年度のプロジェクト終了後（来年度以降）、同団体・自治体内の他拠点でも、第三者評価や自己評価の観点として取り入れることを推奨します。
※応募多数の場合には、選定時に2拠点以上（支援単位ではなく、複数の学校や施設運営の実績のことを指す）運営している事業者を優先する場合があります
- これを踏まえ、本プロジェクトの支援を活用し、事業期間および今後3年間を通して以下の状態を一緒に目指していただける事業者および自治体。
 - ① 評価スケール等を活用し、セルフチェック・第三者評価など質を測る取り組みが実施できる・実施する方法がわかる
 - ② 可視化された内容をもとに改善を講じていく意欲がある（人材育成・研修への参加機会・環境整備等）

今後のスケジュール・実施内容

申込方法

- 本事業ウェブサイト上の「申込フォーム」をご提出ください

*** 公募期間：2024年5月22日(水)～6月7日(金)17時**

【申込フォーム内容】

(1) 事業者・自治体情報

(2) 担当者情報

(3) 本事業の対象拠点

- ・対象拠点情報（1～5拠点目）*1拠点目のみ必須、2-5拠点目は任意

【拠点名】

- ①住所 ②運営事業の種類（放課後児童クラブ or 放課後子ども教室 or 一体型事業 or 児童館 or その他）
- ③運営形式（公設公営 or 公設民営 or 民設民営） ④開設日数（週に〇日）
- ⑤一日の平均利用人数（長期休暇時以外）
- ⑥在籍スタッフ数（※正職員、非常勤職員、ボランティアを含めたスタッフ人数）

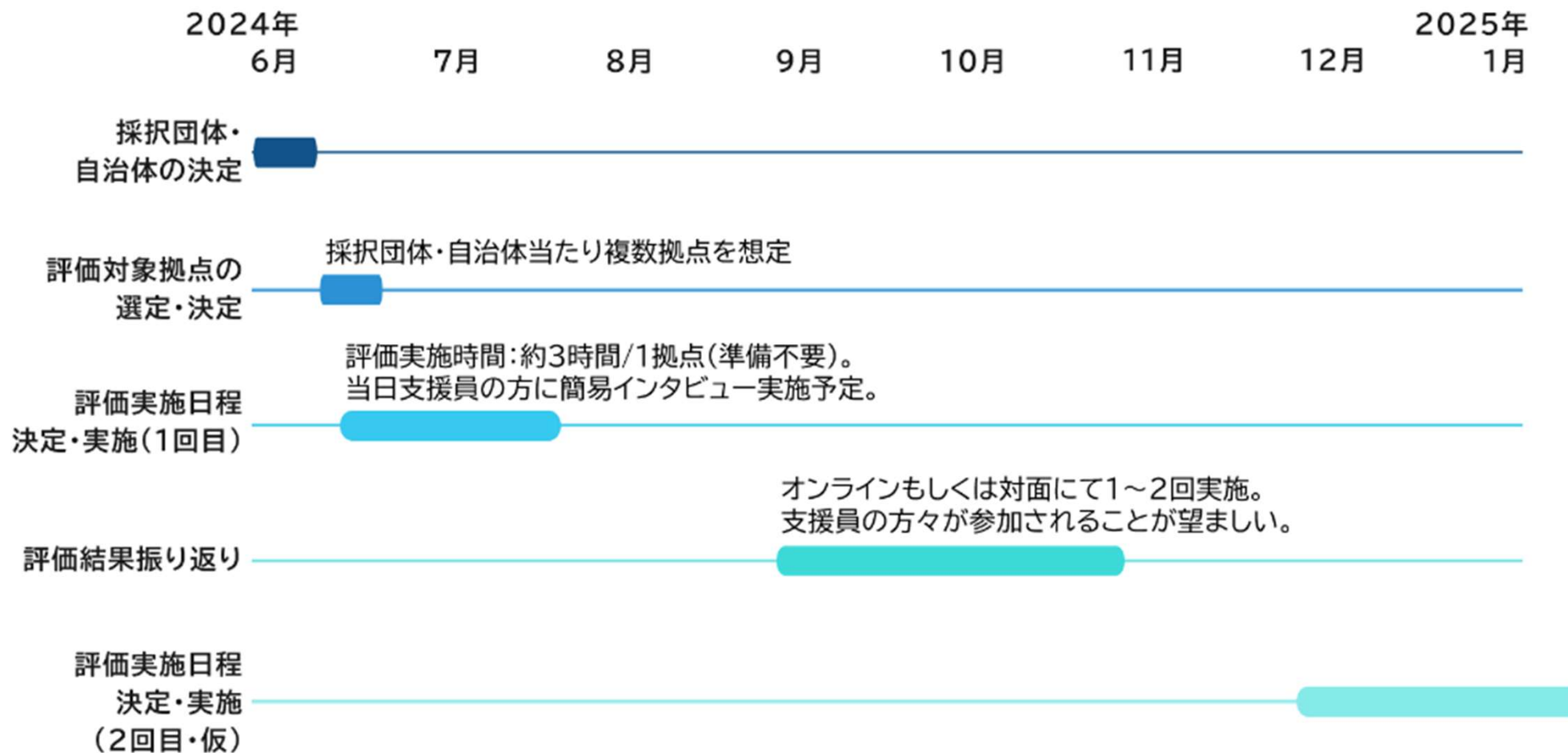
(4) 現状の課題や本事業に期待すること

(5) その他

詳細は公募要領・申込フォーム
をご確認ください

- 審査の結果は、全ての申込者に対しメールで通知します（6月中旬を想定）

決定後のスケジュール概要



訪問評価の前後でお願いしたいこと

本調査では、「新・保育環境評価スケール④放課後児童クラブ（注）」を使った環境の観察とインタビュー（合計で3時間程度）を行い、放課後の質を客観的に測ることで、それが子どもにとってどのような効果をもたらしているかを検証するとともに、その結果をフィードバックすることで、拠点運営における物理的な環境や関わりの振り返りに活用します。

尚、評価スケールを用いた訪問・観察による評価とあわせて、居場所の環境の質がどのような効果をもたらしているかを調査するために以下のご協力を年1-2回お願いする予定です。

- ・子どもアンケート（来室児童へ紙のアンケートを配布し記入してもらう）
- ・保護者アンケート（メールやおたよりでアンケートの回答をご依頼いただく）
- ・子どもの観察評価（来室児童のうちランダムに選んだ数名について、スタッフに子どもの発達状況について評価をいただく。評価項目は1人あたり2-3分で完了する内容を想定。）



参加を検討いただくにあたり

- 今回活用するSACERSの長所
 - ✓ モノ、ヒトの環境に関して、基本的に押さえておきたい内容が網羅的に確かめられる
 - ✓ 普段意識できていなかったことに気付いたり、新たな観点を得ることができる
 - ✓ 得意と不得意がある程度見え、実践の振り返りに活かせる
 - ✓ （注意点）海外で開発され、幼児期の保育から派生した指標である点
- 参加のメリット
 - ✓ 放課後現場の実践を振り返ることができる指標は他にはない。大事なことは、高い点数を取ることではなく、改善点や伸び代を探すこと（頑張れているところも含めて）であり、共通の観点をスタッフ全員で目線合わせをすることができる
 - ✓ 一度取り組んでみると様々な指標の活かし方が見えてくる
 - ✓ 法人本部の方）現場へのフィードバックが担当マネージャーなどの経験則や主観に偏りがちだったり、そういう立場の人もない団体でも本指標が活用できる
 - ✓ 自治体の方）現場にすぐに導入するのは難しい場合であっても、こうしたツールを意欲ある拠点に活用してもらうことで、研修などで共有する良い事例になる

質疑応答

- **参加にあたり、費用はかかるか。**
→費用はかかりません。ただし、評価結果を踏まえて、皆様のご判断で居場所の質を改善するために行う環境整備や人材育成等の費用が掛かる場合はご負担ください。
- **評価を実施するにあたり、事業者・自治体側で対応すべきことはあるか。**
→特別な事前準備は不要です。当日簡単に施設案内をしていただいたうえで、簡易なインタビューを行います。子どもの見守りをしながら、合間でお話を伺うような形でも問題ありません。実施決定後は、すぐに日程調整を開始するため、実施候補の拠点とは事前に確認のうえでご応募いただくことを推奨します。
- **実施日程について希望日や時間帯を指定できるか。**
→実施決定後に日程調整を行います。原則、長期休暇等を除いた通常運営を行っている平日の放課後、入室時間前後から3時間程度で実施します。

- **1つの事業者・自治体で、1拠点のみでも申込可能か。**
→申込みいただくことは可能です。将来的に評価・振り返り手法自体が取り入れやすいものであるかの検証も行うため、応募が多数であった場合は複数拠点を運営している事業者様を優先する場合があります。
- **1つの事業者・自治体で、最大何拠点申込可能か。**
→現時点では、事業者や自治体あわせて合計10拠点程度を想定しているため、1事業者・自治体で最大5拠点の申込をいただけるようにしています。
- **1年間（2025年3月まで）の事業であることは理解しているが、3年間（2027年3月まで）連携することは必須か。**
→必須ではありませんが、可能な限り3年間ご一緒したいと考えておりますので、その可能性も認識いただきつつ申込いただけるとありがたいです。
- **評価結果はどのように公表されるか。また、結果を利用者等に報告することは可能か。**
→実施協力いただいた拠点には、フィードバックの際に拠点ごとのSACERSのレポートをご提供する予定です。その結果を活用いただくことは問題ありません。また、取得したデータは、調査研究目的のみで使用し、また、その結果を本事業の報告、研究発表および広報発信等で活用する際には、推計値・集計値のみが公表され、個人や拠点名が特定されることはありません。



ご参加・ご清聴をありがとうございました。
みなさまのご応募を、心よりお待ちしております。